千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第2週（1/7-1/13）の発生は？

1 定点報告対象疾患（五類感染症）

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

報告のあった定点数	2週	1週	52週	51週
小児科	18	17	15	17
眼科	5	4	5	5
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	27	24	26
基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉市 注意報	1/7-1/13 2週	12/31-1/6 1週	12/24-12/30 52週	12/17-12/23 51週	千葉県 12/31-1/6 1週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	4 0.27	2 0.12	17 0.13
	咽頭結膜熱		3 0.17	1 0.06	4 0.27	2 0.12	17 0.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	◎	55 3.06	18 1.06	41 2.73	64 3.76	103 0.78
	感染性胃腸炎	○	202 11.22	53 3.12	153 10.20	208 12.24	313 2.37
	水痘		3 0.17	7 0.41	10 0.67	9 0.53	54 0.41
	手足口病		1 0.06	2 0.12	0 0.00	8 0.47	12 0.09
	伝染性紅斑	◎	28 1.56	8 0.47	17 1.13	13 0.76	55 0.42
	突発性発しん		11 0.61	5 0.29	5 0.33	5 0.29	16 0.12
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	5 0.04
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）	★★◎	937 33.46	211 7.81	226 9.42	276 10.62	2,378 11.22
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		2 0.40	3 0.75	2 0.40	2 0.40	14 0.41
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2 全数報告対象疾患（16件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	90歳代	病原体の分離・同定
結核	男性	90歳代	病原体遺伝子の検出	水痘（入院例）	女性	30歳代	血清IgM抗体の検出
結核	女性	20歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳未満	抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体の検出	百日咳	女性	10歳代	臨床診断
デング熱	女性	20歳代	血清IgM、IgG抗体の検出	風しん	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
レジオネラ症	男性	70歳代	病原体抗原の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び中枢神経症状等	風しん	女性	30歳代	血清IgM抗体の検出
侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	20歳代	病原体の分離・同定	風しん	女性	40歳代	病原体遺伝子の検出
				－	－	－	－

・第2週は、　結核3件（3）、デング熱1件（1）、レジオネラ症1件（1）、急性脳炎1件（1）、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件（1）、侵襲性肺炎球菌感染症1件（1）、水痘（入院例）1件（1）、百日咳2件（2）、風しん4件（5）の報告があった。

※ （）内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

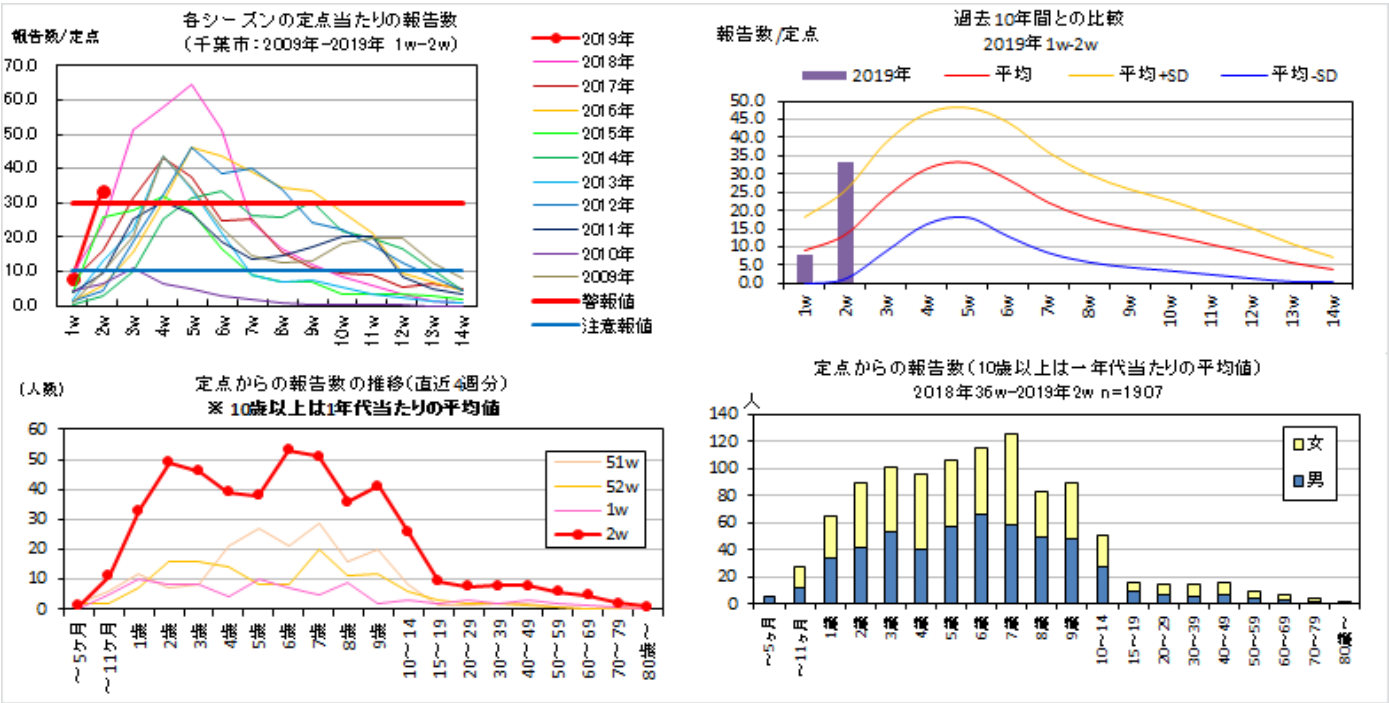
定点当たり報告数　第2週のコメント

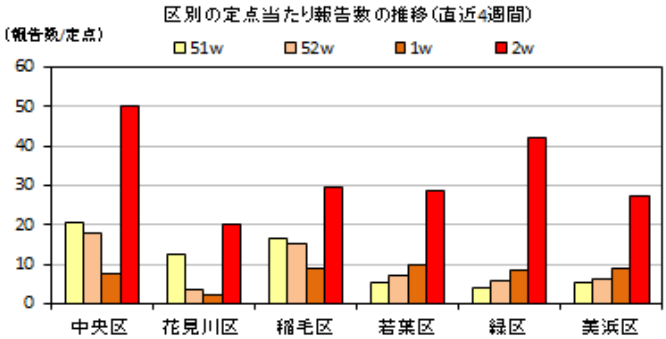
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し3.06となった。過去10年の同時期と比べると最多。緑区で流行発生警報開始基準値を上回った。
＜感染性胃腸炎＞前週より増加し11.22となった。過去10年の同時期と比べると多い。緑区で流行発生警報開始基準値を上回った。
＜伝染性紅斑＞前週より増加し1.56となった。過去10年の同時期と比べると最多。稲毛区で流行発生警報開始基準値を上回り、中央区と緑区で同基準値に並んだ。
＜インフルエンザ＞前週より大幅に増加し33.46となり、流行発生警報開始基準値を上回った。過去10年の同時期と比べると最多。

■　トピック　■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第1週は、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では岐阜県、愛知県、北海道の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと少なめとなっています。千葉市の第2週は前週より大幅に増加し33.46となり、流行発生警報開始基準値（30.0/定点）を上回りました。過去10年の同時期と比べると、過去10年で最も多かった昨年を上回り最多となっています。区別の発生状況は中央区（50.0/定点）で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは6歳で最も多く発生報告がありました。その他、緑区で同基準値を上回っており、残りの4区は全て流行発生注意報基準値（10.0/定点）を上回りました。今シーズンである2018年第36週から2019年第2週までの累積報告数は1907件で、性別では男性が49.4%（943名）、女性が50.6%（964名）で、年齢階級別では7歳（6.6%：126名）、6歳（6.1%：116名）、5歳（5.6%：106名）の順で多く、20歳未満は全体の65.1%、10歳未満は全体の47.5%となっています。

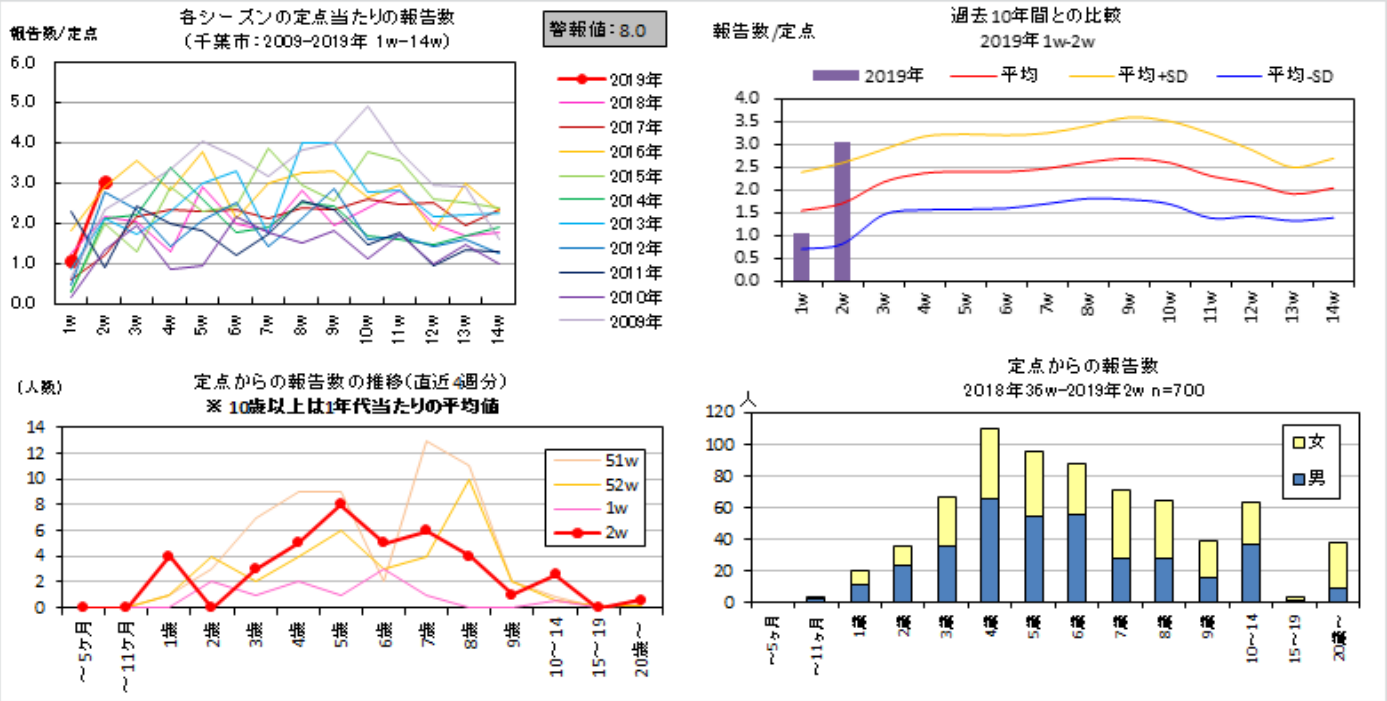




第2週	市全体	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区
基準値超過	警報	警報	注意報	注意報	注意報	警報	注意報
過去10年の同時期との比較	最多	最多	とても多い	多い	最多	最多	最多
昨年の同時期との比較	多い	多い	多い	多い	多い	多い	多い

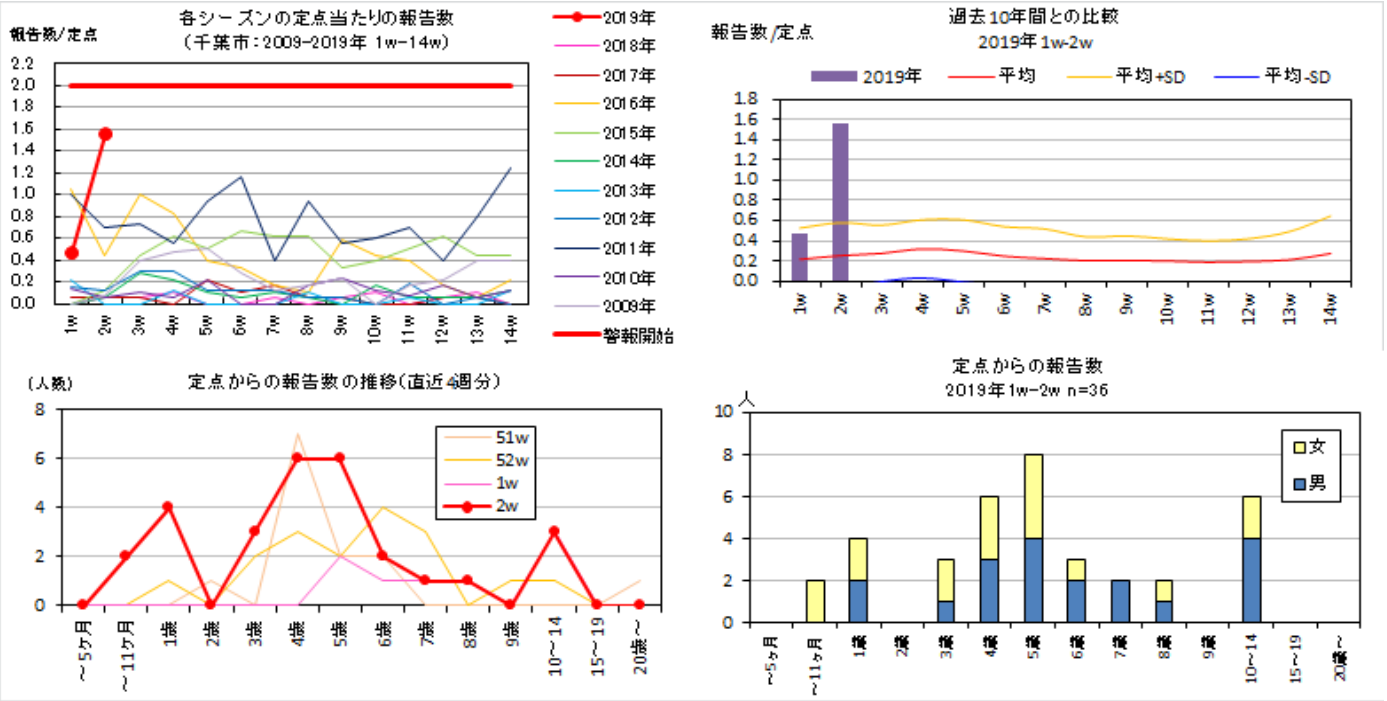
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第1週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、鳥取県、岩手県、石川県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同等となっています。千葉市の第2週は前週から増加し3.06となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、緑区（8.5/定点）で流行発生警報開始基準値（8.0/定点）を上回り最多で、同区の5歳及び10歳代前半で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第2週までの累積報告数は700件で、性別では男性が52.7%（369名）、女性が47.3%（331名）となっており、年齢階級別では4歳（15.7%：110名）、5歳（13.7%：96名）、6歳（12.6%：88名）の順で多くなっています。



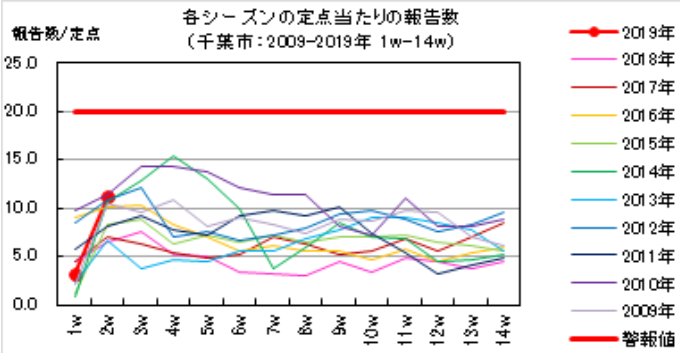
＜伝染性紅斑＞

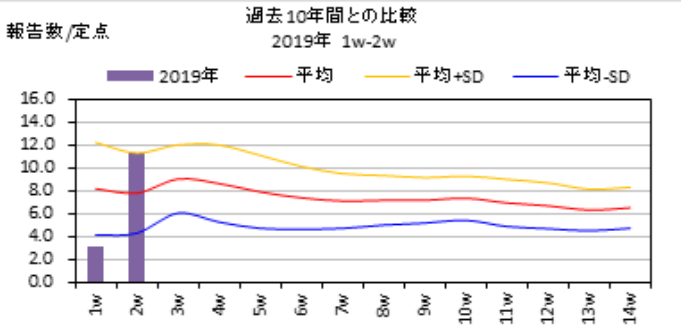
全国レベルの第1週は、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、宮城県、新潟県、東京都の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとやや多めとなっています。千葉市の第2週は前週から増加し1.56となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、稲毛区（3.67/定点）で流行発生警報開始基準値（2.0/定点）を上回り最多で、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。その他、中央区及び緑区で同基準値と並んでいます。2019年第1週から第2週までの累積報告数は36件で、性別では男性が52.8%（19名）、女性が47.2%（17名）となっており、年齢階級別では5歳（22.2%：8名）、4歳及び10歳代前半（共に16.7%：6名）の順で多くなっています。

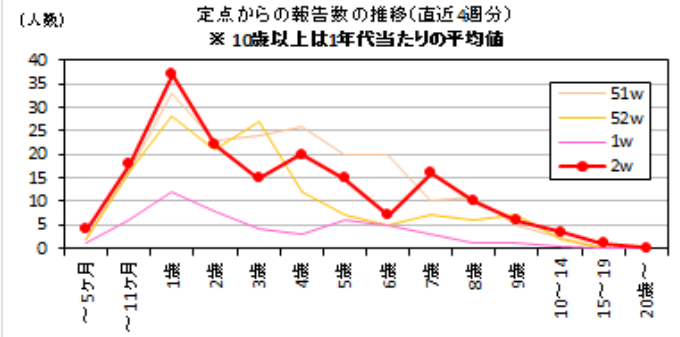


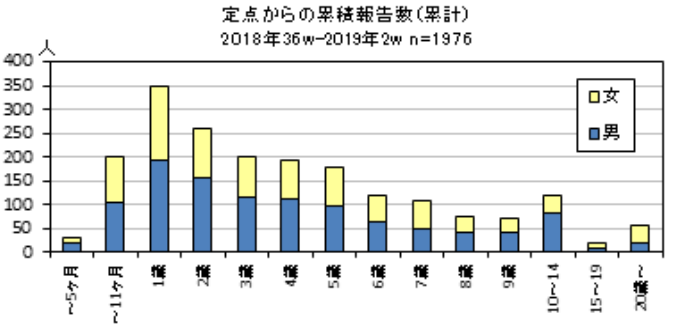
＜感染性胃腸炎＞

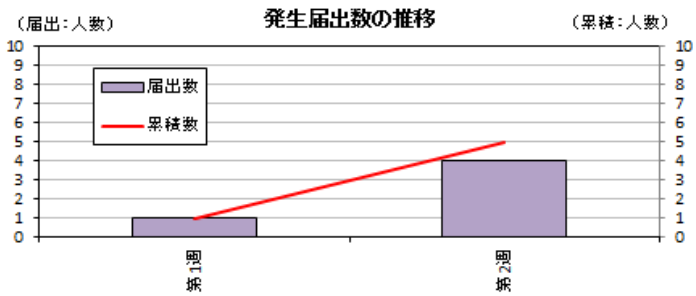
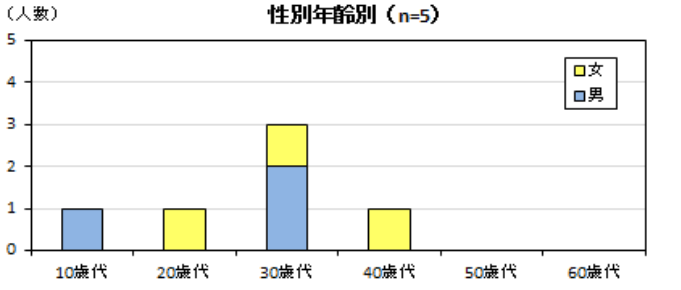
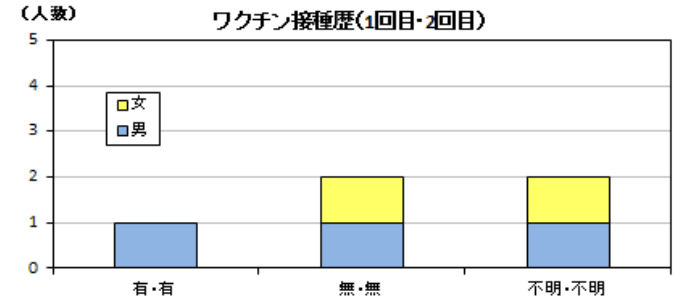
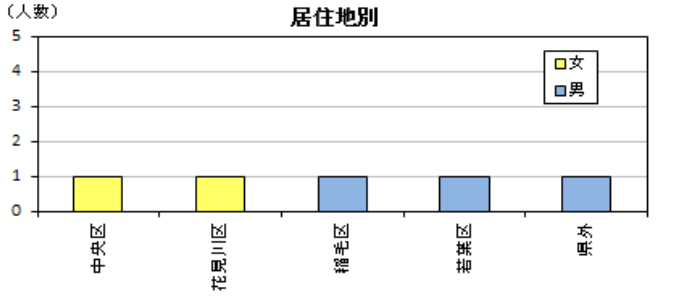
全国レベルの第1週は、過去10年の同時期と比べると僅かとなっています。都道府県別では、徳島県、岡山県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと少なめとなっています。千葉市の第2週は前週から増加し11.22となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区（20.5/定点）で流行発生警報開始基準値（20.0/定点）を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から2019年第2週までの累積報告数は1976件で、性別では男性が55.8%（1102名）、女性が44.2%（874名）となっており、年齢階級別では1歳（17.6%：348名）、4歳（13.1%：258名）、6-11か月（10.1%：200名）の順で多くなっています。









＜風しん＞

全国レベルの第1週は45件で、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国5位となっています。千葉市は第2週に4件の発生届があり、累計で5件となっています。性別では男性が60.0%（3名）、女性が40.0%（2名）となっており、年齢階級別では30歳代（50.0%：3名）が最も多くなっています。ワクチン接種歴は、無し又は不明が全体の80%を占めています。